

【2007年度 オンリー・ワン創成プロジェクト報告書】

《世界に一つの研究を目指して》

和歌山大学長 小田 章

大学の基本機能は、周知の通り、教育と研究の遂行です。これはすべての大学に共通する使命でもあり、教員は全力を挙げてその達成に日々邁進しています。本学でも例外ではありません。

国立大学は、平成16年に法人に移行し、それまでと教育研究環境に大きな変化が現れました。この分野に競争原理が導入され、これまで以上に研究・教育成果の創出が求められるようになってきました。こうした環境変化に適切に対応することがなければ、大学は大学市場から退出を余儀なくされます。しかし、年々減少する予算枠の中で如何にしてこれまで以上に大きな教育研究成果を挙げるかは至難の業ですが、手を拱いているわけにはまいりません。

本学では法人化以前に教育研究の推進のために、「大学特別経費」枠を設け、主として研究面への支援を強化していました。法人化への移行を機に、財政上の課題もあり本経費枠の撤廃の声も出ましたが、多くの先生方から存続要求が出され、現在の「オンリー・ワン創成プロジェクト経費」と名称を変え、2年間のプロジェクトとして再設計しました。平成16年からスタートしましたが、予想を超える応募がありました。その研究成果は、昨年の報告書、《Only One を創る》に纏めました。本年度の成果報告は、平成17～18年の2年間に渡るもので。テーマ及び成果概要は本報告書に掲載の通りです。今年は、その成果を本報告書に掲載するだけではなく、それに評価を加えることを企画しています。昨年は初めての報告書でしたので、学内発表会を行なうに留めました。しかし、今年度からは、外部委員を招聘し外部評価を行なうことになりました。教員の研究成果を公平な観点で評価し、高い評価を得た研究に対して大学はより一層の助成を図り、本学の「オンリー・ワン研究」の創出に繋げていきたいと考えています。また、こうした研究成果を教育の場で講述することによって学生の専門的能力の深化を生み、更には産学連携を通じて広く社会に還元し、地域社会の活性化に寄与できるものと考えております。こうした活動によって、本学の存在意義と本学への信頼がますます深まることになると信じています。

最後に、このプロジェクトの企画・運営に真摯に取り組んで頂いた教職員諸氏に心から敬意を表する次第です。本企画が今後とも一層実りある研究成果を創出することになるように本制度の充実を図っていく所存です。